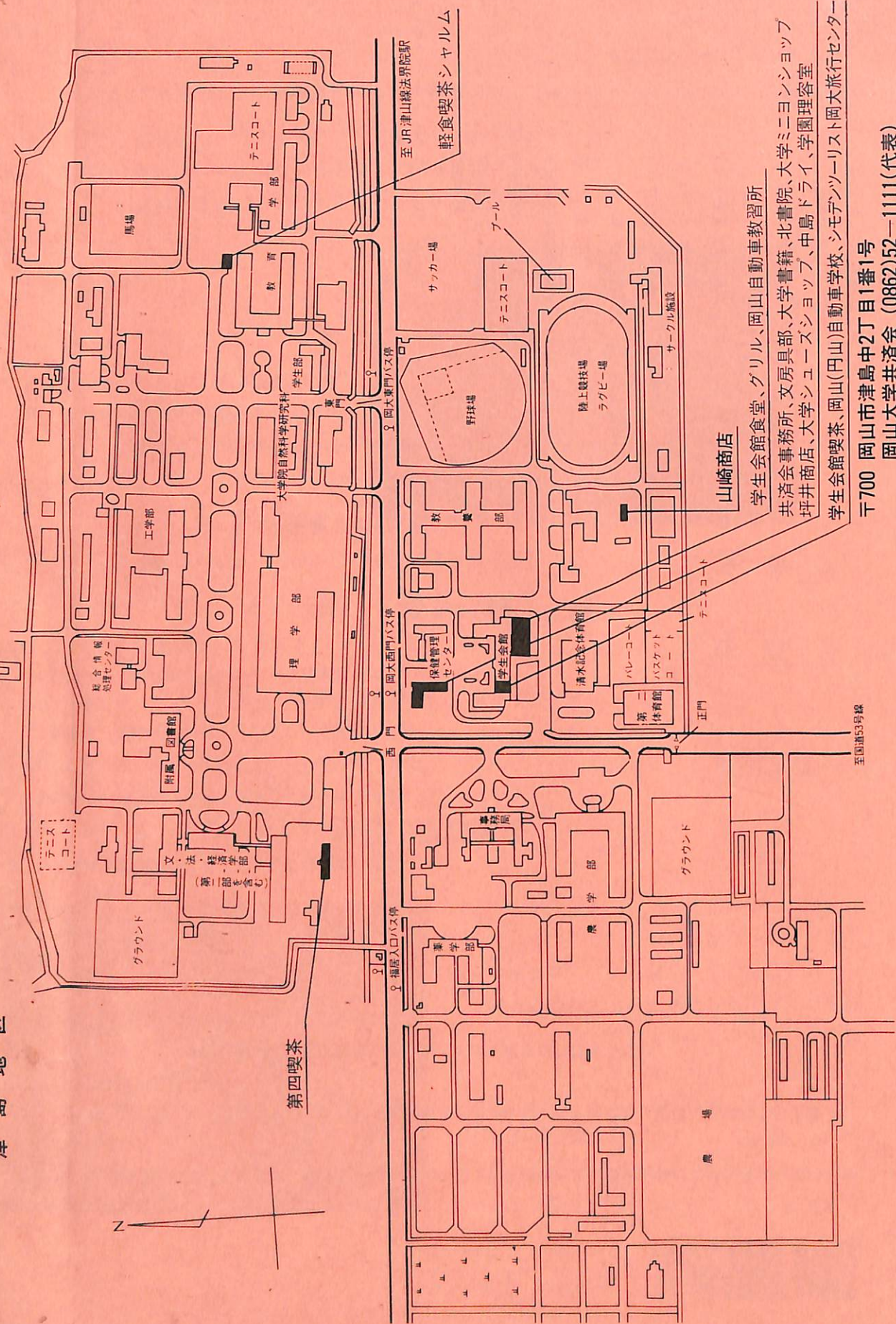


共済会建物配置図

津島地区



〒700 岡山市津島中2丁目1番1号  
岡山大学共済会 (0862)52-1111(代表)

No. 5

1995年2月1日

# 共済会だより

最終号

発行/岡山大学共済会運営委員会

編集/広報検討部会



## まえがき

昭和25年に発足した岡山大学共済会は、平成7年3月をもって40数年に及ぶ長い歴史を閉じることとなりました。

共済会の歴史は、開学間もない昭和24年、林道倫初代学長が福利厚生施設の充実が大学教育に不可欠と考え、当時の岡山商工会議所会頭に業者の推薦を依頼し、食堂、喫茶、理髪、書籍、文房具、靴の各業者の協力等を得て、昭和25年2月に学友会の中に共済部を新設したことにはじまりました。同年4月、学友会から独立、7月には会則が評議会で承認され、共済会は大学の外郭団体として営業を開始しました。その後、直営部門の新設、学生会館の新設、委託部門の増設、その他多くの改善を続けながら今日に至りました。

近年、学内の福利厚生改善の動きに対応し、共済会運営委員会でも真剣な討議が繰り返されましたが、内からの改善が十分に実を結ばないまま「共済会だより最終号」を発行することになりました。

これまで御愛顧いただいた学生・教職員各位に、共済会が岡山大学の福利厚生事業の担い手として果たしてきた大きな役割を永く記憶にとどめていただければと思います。

## あいさつ

岡山大学共済会会長（岡山大学長）

小坂 二度見



岡山大学共済会は、昭和25年に発足し、以来40数年にわたり本学の福利厚生事業を担い、多くの学生及び教職員の福利厚生に貢献してきました。このたび、共済会が発展的に生協へ移行し、現実に関済会が長い歴史を閉じることに深い感慨を覚えます。

共済会は、昭和24年の開学当時、初代学長林道倫先生が教育的な配慮から、岡山商工会議所会頭に、向学心に燃える青年を援助してくれる奇特な方を求め、大学の福利厚生事業を担当してもらおうべく推薦を依頼された。その結果、食堂、喫茶、理髪、書籍、文房具等の業者を推

薦され、理学部構内の不要建物や進駐軍が将校集会所に使用していた木造建物を使用して事業を開始し、その後幾多の変遷を経て今日に至っていると聞いております。すなわち、共済会のあゆみは、そのまま本学の福利厚生のあゆみとも言えます。

近年、大学における教育研究の環境は、改善が図られて向上が見えますが、福利厚生施設については立ち遅れ気味であり、早急な改善が望まれるところであります。

私は、学長に就任する際、福利厚生施設の充実を重点目標に掲げ、早急に実現しなければと考えており、食堂、喫茶休憩室、書店、各種売店等を収容する福利厚生施設棟の建設に全力で取り組む決意であります。

一方、伝統ある共済会が発展的に生協へ移行することになりましたが、共済会の良かったところは生協に受け継いでいき、至らなかった点は生協の良い点を導入して本学の福利厚生が充実・発展することを願っております。

最後になりましたが、本学の福利厚生を支えてくださいました委託業者の皆様、長い間誠にありがとうございました。生協と委託契約を結ばれるとお聞きしておりますが、これからも引き続きよろしくお願ひ申し上げます。また、直営部門の従業員の皆様、御苦勞をおかけいたしました。生協の職員となられましても健康に留意されまして、今まで以上に本学教職員・学生の福利厚生の充実のため御尽力をいただきたいと思ひます。共済会に関わってこられました各位に感謝の意を表しますとともに御発展をお祈りいたしまして御挨拶といたします。

## あいさつ

共済会運営委員長（学生部長）

伊澤 秀而



岡山大学共済会が設けられたのは、戦後の混乱からやや平静を取り戻した頃、総合大学となって間もない時期で、学生にとっては、下宿と飯の問題で苦慮した時代であったと聞いております。その後歴代の学生部長をはじめ多くの方々が共済会に関わり、なみなみならぬ御努力・御苦勞によって、発展・充実が図られてきたことは諸先輩のよく御存じのことです。

委託業者の皆様、期間の長短はありますが、物資の少ない時代から今日までの長い間、狭隘で老朽化した木造建物の中で、本学学生・教職員の福利厚生を支えて下さ

いまして、誠にありがとうございました。

従業員の皆様、恵まれない施設の中で、不十分な勤務条件のもとに、共済会職員としての誇りを持ち、長年学生・教職員の福利厚生サービスに御尽力いただき、感謝いたしております。

私は平成6年8月に16人目の学生部長に就任しました。就任時は非常に大変な時期であると覚悟しておりましたが、想像以上に動きが早く、戸惑いも覚えました。前学生部長のときから生協導入問題及び共済会の存続問題が緊急かつ重要な事項であったのでありますが、学内の趨勢及び共済会従業員の生活等を考慮し、従業員及び委託業者並びに生協準備会の役員等との話し合いを重ね、さらに、共済会運営委員会の方々の御意見を伺いながら、共済会がいかにあるべきかを検討してまいりました。平成6年11月の評議会において、共済会が発展的に生協に移行することが決定され、平成7年3月をもって歴史と実績を誇った共済会が廃止されることになったのであります。私は、共済会40数年の歴史の最後を結果的に受け持ったことになるわけですが、その責任の重さを十分感じながら進めてまいりました。

今後は、共済会の良さと生協の利点が活かされた福利厚生が行われ、学生・教職員の生活の文化的経済的な改善向上が図られることを期待するとともに、生協委託となられる各業者の皆様と生協職員となられる共済会従業員の皆様の御健康御繁栄を祈念し、御挨拶とさせていただきます。

# 共 済 会 の 歴 史

年 月	事 項
昭24. 5	初代林学長が岡山商工会議所会頭に、大学の福利厚生事業の経営適任者の推薦を依頼
8	岡山商工会議所会頭が学長に食堂、喫茶、理髪、書籍、文房具、雑貨及び運動具の経営者を推薦
9	岡山市靴製造販売組合が協力の申し入れ、先に推薦を受けた業者とともに学友会委託販売業者として決定
25. 2	学友会組織の中に共済部を新設し、上記業者と雇用契約締結。現理学部、教育学部構内で営業開始
4	共済部は学友会から離脱し、大学の外郭団体岡山大学共済会として独立。大学の全構成員から入会金100円を徴収することを決定
7	会則が評議会において承認され、岡山大学共済会として発足。理事会制を採用
12	現野球場にあった旧軍建物に第二食堂部、古書部を開設
27. 1	文房具部が共済会の直営として独立
2	旧教育学部構内に第二喫茶部を開設
12	事務局構内に第三喫茶部を開設
28. 1	旧法文学部構内に第四喫茶部を開設。洋書部門を併設
10	第四喫茶部及び洋書部門を閉鎖
12	クリーニング部門を開設
29. 1	北団地の第一食堂部、理髪部、購買部等を南団地に移転
30. 4	理事会制を運営委員会制に改組
31. 5	第二食堂部を閉鎖。第一食堂部を学生食堂と呼称。第四喫茶部が復帰
38. 12	学生食堂が閉鎖（学生会館の新設）
39. 1	学生会館に食堂部を直営として開設
42. 9	第二喫茶部が現教育学部構内へ、第一喫茶部が元教養部構内へ移転
47. 4	自動車教習部を開設
52. 6	共済会運営委員会小委員会を設置
53. 4	正会員の入会金を300円に改正
63. 3	第三喫茶部を閉鎖
7	共済会運営委員会に「共済会改善構想例」提出
平1. 4	委託部門を「共済会委託業者」として経理の分離を実施
5	共済会運営委員会にワーキンググループ（WG）を設置し、共済会の改善等について検討開始
2. 6	WGが共済会運営委員会に検討結果を報告
10	共済会運営委員会に部門別検討部会を設置

平3. 4	学生会館食堂を改修し、一部カフェテリア方式を導入。運営委員会小委員会を廃止
5	シモデンツーリストと委託契約、「岡大旅行センター」を開設
12	文房具部を「購買部」と改称、購買棟南端の倉庫跡に新装開店
4. 1	広報検討部会が「共済会だより」創刊号を発刊
9	サービス部を直営として開設
5. 1	共済会運営委員会に書籍部検討委員会を設置
6. 1	「共済会臨時従業員就業規則」を制定
9	共済会運営委員会小委員会を設置
11	共済会運営委員会が「共済会のあり方」に関する基本方針を決定
11	学生生活委員会が岡山大学の福利構成事業の基本方針を決定
11	評議会が福利厚生施設の経営母体等について「岡山大学共済会を発展的に消費生活協同組合に移行することを前提に、本学の福利厚生事業の実施事業者として、新たに消費生活協同組合を導入する」旨決定
12	共済会運営委員会が平成7年3月をもって共済会を廃止する旨決定
7. 3	共済会廃止



## 生協移行への経緯

年月日	事項
昭59.11.15	「生協設立を考える教官有志の集い」が発足
60.7.13	「院生大学生協設立をめざす会」が発足
61.2.1	「岡山大学生協設立教職員準備会」が発足
4	「生協設立を願う学生有志の会」が発足
62.10.27	「岡山大学生協設立学生準備会」が発足
63.7.4	共済会運営委員会に「共済会改善構想例」提出
平1.5.19	共済会運営委員会に「共済会の改善を検討するワーキンググループ (WG)」を設置, 共済会の改善等について検討開始
2.6.11	上記WGが共済会運営委員会に検討結果を報告
4.5	学生準備会と教職員準備会を合体させた「岡山大学生協設立推進会議」が発足, 生協設立の署名運動を開始
5.7.8	生協設立推進会議代表が小坂学長に署名を提出
11.17	学生生活委員会に「新福利厚生施設の経営母体等に関するワーキンググループ (WG)」を設置, 経営母体等について検討開始
12.1	第1回WG開催
21	第2回WG開催, 生協準備会の意見聴取
6.1.19	第3回WG開催, 委託業者の意見聴取
31	第4回WG開催, 共済会運営委員の意見聴取
2.7	第5回WG開催, 委託業者及び生協準備会の意見聴取
14	第6回WG開催, 委託業者及び生協準備会の意見聴取
21	第7回WG開催
23	WG座長が「答申書」を提出
3.7	学生生活委員会が「答申書」について協議
4.25	学生生活委員会に「新福利厚生施設の経営母体等に関する第2次ワーキンググループ (WG)」を設置
5.20	第1回WG開催
6.9	第2回WG開催, 生協準備会の意見聴取
17	第3回WG開催, 直営部門主任の意見聴取
24	第4回WG開催, 委託業者及び生協準備会の意見聴取
7.1	第5回WG開催, 委託業者の意見聴取
8	第6回WG開催, 委託業者の意見聴取
22	第7回WG開催, 生協準備会の意見聴取
9.2	第8回WG開催, 生協準備会の意見聴取
9	第9回WG開催, WG座長が「答申書」を提出

平6.9.13	学生部と共済会主任が面談
20	学生生活委員会が「答申書」について協議
28	共済会運営委員会が小委員会を設置, 「共済会の在り方」について協議
10.11	第1回小委員会開催
18	第2回小委員会開催
20	共済会運営委員会が「共済会の在り方に関する基本方針」について協議
21	学生生活委員会が経営母体等について協議
24	学生部と共済会従業員が面談
25	〃
26	学生部と委託業者が面談
27	〃
28	〃
11.2	共済会運営委員会が「共済会の在り方に関する基本方針」を決定
4	学生部と生協準備会が面談
7	学生生活委員会が「岡山大学の福利厚生事業の基本方針」を決定
8	学生部と生協準備会が面談
9	学部長会が学生生活委員会の基本方針を了承
10	学生部と共済会従業員が面談
11	学生部と委託業者が面談
15	学生部と生協準備会が面談
17	〃
18	学生部と委託業者が面談, 学生部と生協準備会が面談
21	学生部と委託業者が面談
24	評議会が学生生活委員会の基本方針を尊重し, 「共済会を発展的に生協に移行することを前提に, 新たに生協を導入する」ことを決定
25	第1回生協設立発起人会開催
30	学生部と生協準備会と共済会(従業員及び委託業者)の三者が面談
12.7	共済会運営委員会が共済会を平成7年3月31日をもって廃止することを決定
8	学生生活委員会が平成7年4月1日以後の共済会の残務処理, 監査を学生生活委員会福利厚生施設小委員会に託すことを決定, WGを廃止
14	第2回生協設立発起人会開催
14	生協創立総会開催
平7.3.31	共済会廃止

## 運営委員の声

### 残されし問題

食堂検討部会長 藤本 喬 雄

戦後時代にスタートして、45年余を経た共済会が、今、発展的であるかどうかは別として、解消せんとしている。多くの歴史については、それに詳しい余人におまかせすることにして、その胃袋的中心である食堂部がおかれている状態、検討中の問題、将来の問題について若干書き記しておきたい。

食堂部の現員は、28人で、うち16人はパートタイマーである。給与その他の勤務条件は、いろいろな意味で、公務員のそれに準じている。食堂の広さは、580㎡、座席数は450席である（グリルは40㎡、席数は30席となっている）。ノーマルな1日で、1500～2000食を供給している。朝は8時から夕方6時30分まで営業している（7時までオープン）。メニューは、季節的変動もあるが、大、中、小、和の定食の他に約20種類を用意している。喫茶室も利用可能である。

さて、問題点に移ろう。最大のものは、学生、教職員の食に対する要求の多様化、「高度化」、変化の早さに、どのようにタイムリーに対応していくか、であろう。この点、情報収集、企画力、人的組織と物理的構造の柔軟性が必要である。若い学生、教職員のアイデアがおおいに求められ、活かされなければならない。今までのような運営委員会、あるいは、他大学に普通にみられる生協理事会・総代会には欠けているものを注入することが必要である。

全ての問題は、上記の点に関連するのであるが、快適な食堂の設計、設営が重要である。食堂に連携して、喫茶室、談話室等の総合的サー

ビスのプログラムを練るべきであろう。気持ちのよいサービスを生み出すには、快適な職場環境が欠かせないことも無論である。現在の厨房は、決して快適とはいえない状況である。合理的なレイアウトではないし、明るさも不足している。

次に、他の部門も同様であるが、経営のルールが会員に周知される必要がある。年間計画の公表、提供価格の設定法、チケットの使用法、売り切れの場合の代替食の提供方法、払い戻しの条件・方法、食堂の他目的への利用法等、そのパンフレットが常備されるべきであった。

最後に（しかし、重要であるが）、大学の外に対しても優しい経営でなければならなかった。しかし、環境に対して配慮が足りなかった。食堂は、大量のゴミと洗剤を外部に排出していることを認識することが大切である。これらの排出物をいかに減少させるか、あるいは、安全なものにするか、今後の課題である。

（経済学部）

購買検討部会長 阿部 浅 樹

購買検討部会では、共済会購買部の運営について話し合い、また購買部改善のための他大学生協の視察を行ってきた。私個人としては、2年間この部会に参加して、価値ある体験をさせていただいたが、委員としては力の足りない点が多くありましたことをお詫び申し上げます。

共済会は、学生と教職員の学内での生活と活動を支えてきた。しかし、長年の間に問題点も現れてきた。それは、経営上の責任と所在が明確でない点、店舗建物の老朽化と狭隘化であるが、運営委員会を中心とした組織が柔軟に動くことができず、残念ながら自らを改善あるいは

改革しようとする努力は、十分な結果を得ることができなかった。共済会は、4月から生協に移るが、共済会の問題点は解決し、しかも利用者や取り巻く地域社会に不都合な点のないよう、必ず「改善」された形での円滑な移行を、この今こそ為し遂げねばならない。

生協事業連合との関係について考えたい。事業連合は、各生協で扱う商品の一部に統一的な価格設定を行い、さらに売上状況を把握し、営業企画案や指示を出すとのことである。このシステムを維持するために、各生協は売上高の2.5%という負担金を拠出している。共済会は独自商品を開発してきた、文具等を低価格で供給してきた、委託業者が多いなどの特徴があり、現共済会の良い点が損なわれることのないように、他とは異なる独自性を強く出した運営形態を考えるべきである。また他大学生協との情報交換などの交流は当然として、それ以外に単身赴任による長期出張を求められるような、事業連合主導の関係については、あらゆる立場からその利害を明らかにしたい。

昨年12月から、生協設立の活動が具体化しているが、岡山大学としての独自性を保つため、また岡山大学の福利施設の先輩として、共済会職員も直ちにこの活動に参加すべきである。

共済会関係者のみなさんには、これまでの御努力に感謝申し上げるとともに、さらなる発展のため、引き続いての御活躍をお願い申し上げます。

（農学部）

サービス検討部会長 有 道 惇

サービス部は、平成4年9月24日にオープンして、僅か約2年半を経過したばかりです。

この間、自動車教習所の斡旋をはじめとして、団体保険、各種資格取得講座、第二電電個人登

録、英会話、有線への加入等の各種斡旋、また、電話機、ファクシミリ、ポケベル、各種プライベートカードの販売を行ってきました。さらに昨年度秋からは、コンサートチケット、ジーンズを、今年度からスキーツアー、マイカー運送、引っ越し、レンタカー、自動車教習所の拡大、各種イベントツアーなどの業務拡大を計画していました。業務の状態は、自動車教習所を中心として順調に伸びてきています。

仕事は、総務と兼務の現主任とパート2名の方が協力して活気のある活動を行い、意欲的に取り組んできました。昨年度末には、前部会長の努力もあって、部屋の改装が行われ、狭いながらもスペースの有効利用によって、学生・教職員の多数が利用するようになってきています。

以上のように、短期間ではありましたが、共済会の本来の方向である福利厚生への役割は果たすことができたと考えています。従いまして、この度の生協への移行は発展的とはいえ、非常に残念であります。今更ながら、共済会の早期組織改革、PR活動が自由にできる制度改革、さらには経済的基盤の確立等が今日までなされなかったことが、この度の要因となったと考えられます。

生協への移行にあたっては、くれぐれも「発展的」という意味を最大限生かし、これまで続けてきた業務、従業員の方々が蓄積してきたノウハウが、有効に生きて働けるようになることを望んで止みません。当然ながら、従業員の方々（パートの方も含めて）が生協の組織の中でイニシアチブがとれるような方向を強く訴えたいと思っています。

（教育学部）

委託検討部会長 長谷川 芳 典

共済会の委託業者は11を数えた。是非は別と

して、このように福利厚生事業の相当部分を業者に委託する形態は、全国の国立大学の中でも極めて珍しいと思う。多くの業者は、40数年にわたり福利厚生のために誠心誠意努力されてきた。これは、私自身が委託検討部会長として肌で感じた事柄である。しかし、ここでは字数が限られているので、不本意ながら感謝の言葉は割愛させていただき、福利厚生の方の更なる発展を願う立場から、これまでの業者委託の問題点と今後の課題について、私なりの意見を述べることにしたい。

まず、利用者側から見た問題をあげれば、直営部門と異なり利用者の要望が実現されにくい点があった。例えば、各喫茶ではメニューの改善、栄養への配慮、外国米対策などが業者まかせであり、また書籍については、業者の営業規模が小さいために、精一杯頑張っていたとしても値引率の拡大が難しい状況にあった。

業者側から見た問題点としては、業者は現存の施設の借業者であるため、施設の拡充や新設を大学当局に要求しにくい立場にあった。福利厚生施設がここまで老朽化し、放置されてきた原因の一つはまさにここにあったと思う。

次に、契約上の問題として、委託契約上は1年ごとの更新となっているが、現実には一旦契約してしまえば何年でも営業が続けられるような風潮があった。このうち共済会設立当初から誠意を尽くされてきた業者については、当時の導入のいきさつもあり、その是非を簡単に論じるわけにはいかない。しかし、一般論として、業者委託の理想である「競争原理による価格・サービスの向上」を図るためには、定期的な入れ替えと公正な競争入札が不可欠であろう。特に国立大学のような公的な施設を貸与する場合には格段の厳正さが要求されよう。少なくとも、今後新たに業者を導入する場合には契約方式を

再検討する必要があると思う。

今後これらの問題について、業者各位との友好信頼関係を保ちつつ、設立された岡大生協が積極的に対応されることを切に望む次第である。  
(文学部)

### 共済会の生協移行に当たって希望すること

運営委員 恒光 徹

岡山大学共済会の生協移行を心から歓迎します。岡山大学の福利厚生の方の大きな改善の可能性が開けたと思います。生協理事会が、大学構成員、生協従業員の声に耳を傾け、全国の大学生協との連帯を深めることによって、この可能性を現実のものにすることを願っています。

さらに、共済会食堂部会のメンバーとして考えてきたこととして、生協に対し、次のような要望があります。①メニューの多様化だけではなく、味の向上も重視し、そのため正規の従業員として調理師(コックさん)を是非採用してほしいと思います。これは例えば広島大学生協でやっていることです。②食堂を南と北の2カ所に限定せず、現在の教育学部、文・法・経済学部の喫茶をその場所で存続・充実させる方向で努力していただきたい。簡単な定食を提供したり、購買・雑誌コーナーのある施設が、この広い岡山大学津島キャンパスには何カ所も是非必要だからです。

最後に、共済会をこれまで御利用いただいた皆様がすべて岡山大学生協の組合員となられ、素晴らしい生協実現のために御努力いただくことを希望します。

(法学部)

### 共済会運営委員時代の思い出

元運営委員 三宅 新三

私が旧教養部の共済会運営委員をつとめていたのは、まさに岡山大学の暗黒時代ともいべき時期で、学生はもとより、教官も足を踏み入れるのがためられるような暗い雰囲気が、学生部を支配していたと記憶しています。

当時の委員が行った最大の仕事は、財政的に傾きかけていた共済会の改革案をまとめあげたことでしょう。運営委員会の下にワーキンググループを作り(このワーキンググループを作ること自体にもはじめ学生部から強い抵抗がありました)、夏休み中も週1回集まって案作りをしました。この改革案の骨子は、共済会の組織を、法人格を持たせないにせよ、ほぼ大学生協の組織形態にするというもので、我々が視察に行った島根大学の共済会をモデルにしたものです。

しかし、ワーキンググループが折角まとめたこの改革案も、その後の運営委員会で意見が一本化できず、結局放置されてしまうのですが、共済会の大学生協への移行が決定した今、我々の考え方は間違っていないかと、改めて確信している次第です。

(文学部)

### 共済会の改革と運営から学んだこと

元運営委員 柳井 雅也

私は1988・89年の2年間にわたり共済会運営委員をしてきました。当時は共済会の構造的赤字が深刻になり始めた時期で、その改革の必要性が強く求められ始めた時期でもありました。それを受けて、当時の学生部は画期的な共済会改革案を提案しましたが、委員長の恣意的とも

言える議事運営によって、それは私案であるとして廃案にされそうになったことがありました。

また文学部学生委員が会議内容を漏らしたということで委員長が基本的人権を侵害されたとして(共済会は秘密会ではないが…)問題になったこともありました(後日、文学部は遺憾の意を表明した)。

そんなこと等が走馬灯のように思い出されますが、どうか生協の運営においては、真面目に一生懸命考えて意見を言う人や行動する人が馬鹿を見ないような組織運営を心掛けていただきたいものと思います。

(文学部)



## 利用者の声

近藤 毅 (法学部2年生)

普段から何げなく利用している共済会ですが、よく考えてみると、案外、「こんな所が良い」といえる点が多いものです。

それについてはそれぞれ違うと思いますが、例えば、食堂の場合、「定食が安くてお得だ」というのは多くの人を感じるのではないのでしょうか。(ブレンド米を使っていた時期もありましたが)国産米のおいしい御飯で、メニューも日替わりで、あれだけのバリエーションがあり、しかも、周辺の食事処のセットメニューに比べても断然低価格というのは、特に自炊をしない下宿生にとって嬉しい限りです。また購買において、特に文具は普通の店より安いと思いませんか？

他にもいろいろと挙げられるとは思いますが、下宿生にとって何よりも“低価格”というのは嬉しいことです。この点で、共済会は良心的だと思います。

### 共済会を使って

堀内 智 (農学部2年生)

共済会を毎日使っていて、今、共済会の人達は温かいなあ、と感じます。朝など、割にすいている時間に食堂へ行って、

「すみません。御飯少なくして下さい」とお願いすると、

「あんまり食べないようじゃ、ダメよ」とか「このぐらい？もっと減らすの？たくさん食べてよ」などと、気を使って下さいます。下宿生の多い岡山大学の学生にとって、そういった親のような温かさは、無縁になりがちなのです。ですから、そんな小さな一言が、なんだか、とてもホッとします。

私達は、日頃、共済会を、とても自然に、そして何気なく利用しています。でも、今回、立ち止まって、改めて共済会について考えてみると、朝の「おはようございます」というおばちゃん達の声で一日が始まること、荷物が多き時にさっと扉を開けてくれる購買の人など、日常の

温かい面々が浮かんできます。そういった温かさが、これからも続いていくことを望んでいる学生は、きっと、私だけではないと思います。

### Year End Party!!

冬季休暇間近の12月21日(水)午後1時から、共済会運営委員会と学生会館運営委員会との共催でYear End Partyが行われました。企画を作り慣れていない学生委員ばかりで準備段階から随分と戸惑いもありましたが、共済会や学生会館の方々、以前委員をやっていた先輩などから多くのアドバイスや協力をいただき、約70名の参加を得ることができ、大変盛大なPartyとなりました。

準備を行える学生委員が少なく、何をやるにも人手不足の状態でしたが、「学生にとってこんなに嬉しい企画はないよね」と大騒ぎで準備をしていました。企画の立案が遅くなり、サークルへの出演依頼を行うときには随分と無理な依頼をしてしまいましたが、どのサークルも快く受けくれました。「ぜひ出たいと思います」という一言を聞いたときには、「この企画を考えてよかった」ととてもうれしくなりました。

“一度に三つのサークルの発表が見れて、食事でもでき、映画も見れる”今回はこういった内容の企画でした。「参加した学生には楽しんでもらえたのではないかと私は思っています。また、大学の施設内でも、共済会の協力を得て、こんなに楽しい企画を行えることを知ってもらえたと思います。次の学生委員はどんな楽しい企画を作ってくれるのでしょうか。これからも、参加者が大学を好きになるような、学生にとって嬉しい企画を続けて行ってほしいものです。



## 共済会従業員の声

総務部主任 江草 幹 忠

岡山大学共済会は、私が生まれる以前から、学生・教職員の福利厚生を担っていました。私は2年間というわずかな時間しかなく、何もできなかったのが残念でしたが、多くの方々と接することができたこと、事務所で蚊に刺されたこと等々毎日楽しく仕事をさせていただきました。

今まで共済会を支えていただいた方々に深く感謝いたしますとともに、皆様方とお会いできる日を楽しみにしております。

食堂部主任 竹本 忠 司

平成2年3月12日、共済会食堂部に採用された。当時は、食券を1人の女性が手売りしていた。1年後には自動券売機に代わった。昼食時の利用客の状況は、まるで西大寺の会陽(裸祭り)のような混雑であった。毎年夏場は、厨房内は暑く、皆汗まみれで働いていた。食堂部の女性は、皆暑さにも負けず、見事に仕事をやりとげていた。この姿勢が45年間続いた原動力であったと思っている。

利用者の方々もカウンターにて少々お待たせした場合でも静かに出来上がるのを待つて下さった。一番ありがたく感じたのは、食事後洗い場の返却所で「ごちそうさま」との一言であった。

利用者の方々には、おいしくて良いものを食べていただく、という姿勢でいました。特に米(御飯)にはこだわった。

機材、調理道具等の故障は度々あり、一番神経を使った。毎日同じことはなく、それぞれ初めて経験することが多く、絶えず緊張して勤務した。共済会ですべてのエネルギーを使い果たした。これが実感である。

岡山大学の皆様方、大変お世話になり、ありがとうございました。

購買部主任 川西 幸子

いざペンを持つと私には一杯思いでありすぎて涙が出ます。今でこそ購買部と名称も新たに、冷暖房完備の綺麗な場所ですー方式の営業をしていますが、3年程前までは購買棟の一角(現サービス部)に文房具部と称し、あの狭い所に、所せましと商品を積み重ね、お客様の要望の品をその都度手渡すという販売方法でしたので、それぞれのお客様に売り子が付くということで、とても親近感があり卒業式が近づくたびに、とても寂しい思いをしたものです。

○夏などは首にタオルを巻き、扇風機を何台も回し、髪をさかさにおっ立てて、汗だくになりながら接客したこと

○少しでも安く提供できるよう、業者に噛み付くようにして値段交渉したこと

○卒業生がおみやげを手に会いに来てくれたこと

等々、つらかったこと、うれしかったこと、数々思い出されます。

購買部になってからは、少しずつですが新しいことを手掛けました。お菓子、雑貨、パソコン展示、オリジナルグッズの充実、最近ではお弁当の販売も始めました。

まだまだやり残したことが沢山ありますが、これからは新しい組織の中で、購買部一同今まで以上に頑張っていくつもりでいます。



青師より津島はうう半世紀  
 職場新たに微力つくさん

キャンパスとともに歩み一幾年月  
 奇りそだてーレン家かれ

悲しみも誇りもすべてカミソリに  
 かきし想いは生ある限り

学園理容室

いんげんやんぎらやんぎら  
 こいからこいからこいからこいから  
 いくくあここのりさこいこいこい  
 今とていかに生きていこう  
 だんごこいしゅうすいしゅう  
 小いこいこい

共済会 四十五年をきて二、三のおもい、  
 忘れきて厚生福祉に燃えつくす、  
 意地はりてとしをわつ身代の細み。  
 名を冠して新う人に 彼の目をしのぶ。

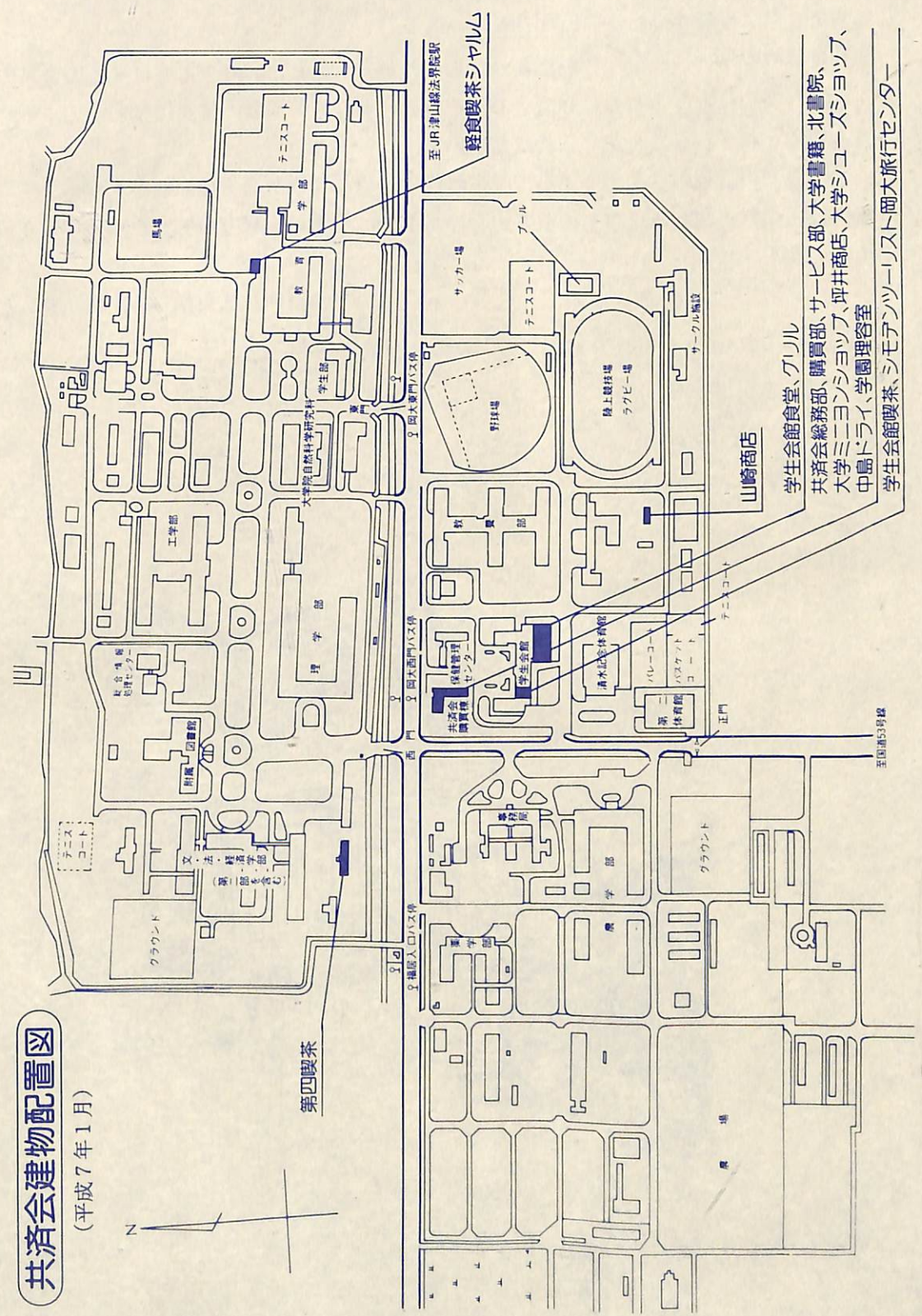
長き年月思出は色々あれどあつて  
 言葉にならず岡大のいついつまでの  
 発展を祈ります。佐藤千鶴香

長い長い間共済会に  
 お世話になり有難うござい  
 ました。喫茶ルーム佐藤正子  
 長いようで短い4年間でした。  
 ご愛顧いただいた皆様のご多幸を  
 いよいよお祈りしつ

岡大旅行センター

岡山大学共済会委託第四喫茶 大西釣崎

(委託業者の方々の寄せ書きから)



共済会建物配置図  
 (平成7年1月)



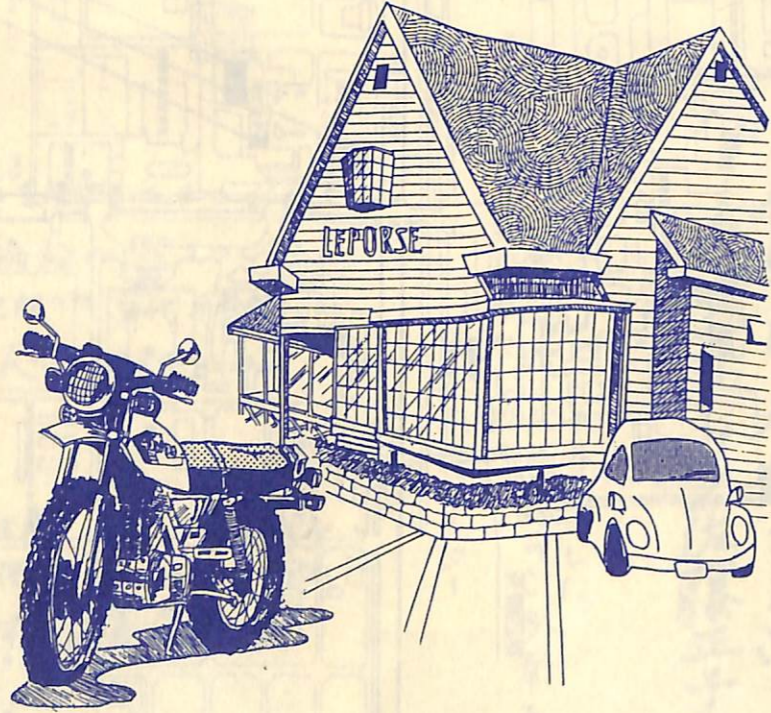
◆編集後記◆

「共済会だより最終号」をお届けします。

2月はじめの発行に、なんとかこぎつけることができました。できるだけ多くの会員の方々に読んでいただくことで、共済会の沿革を振り返り、共済会の業務に携わってこられた方々の労をねぎらうことができればと思います。

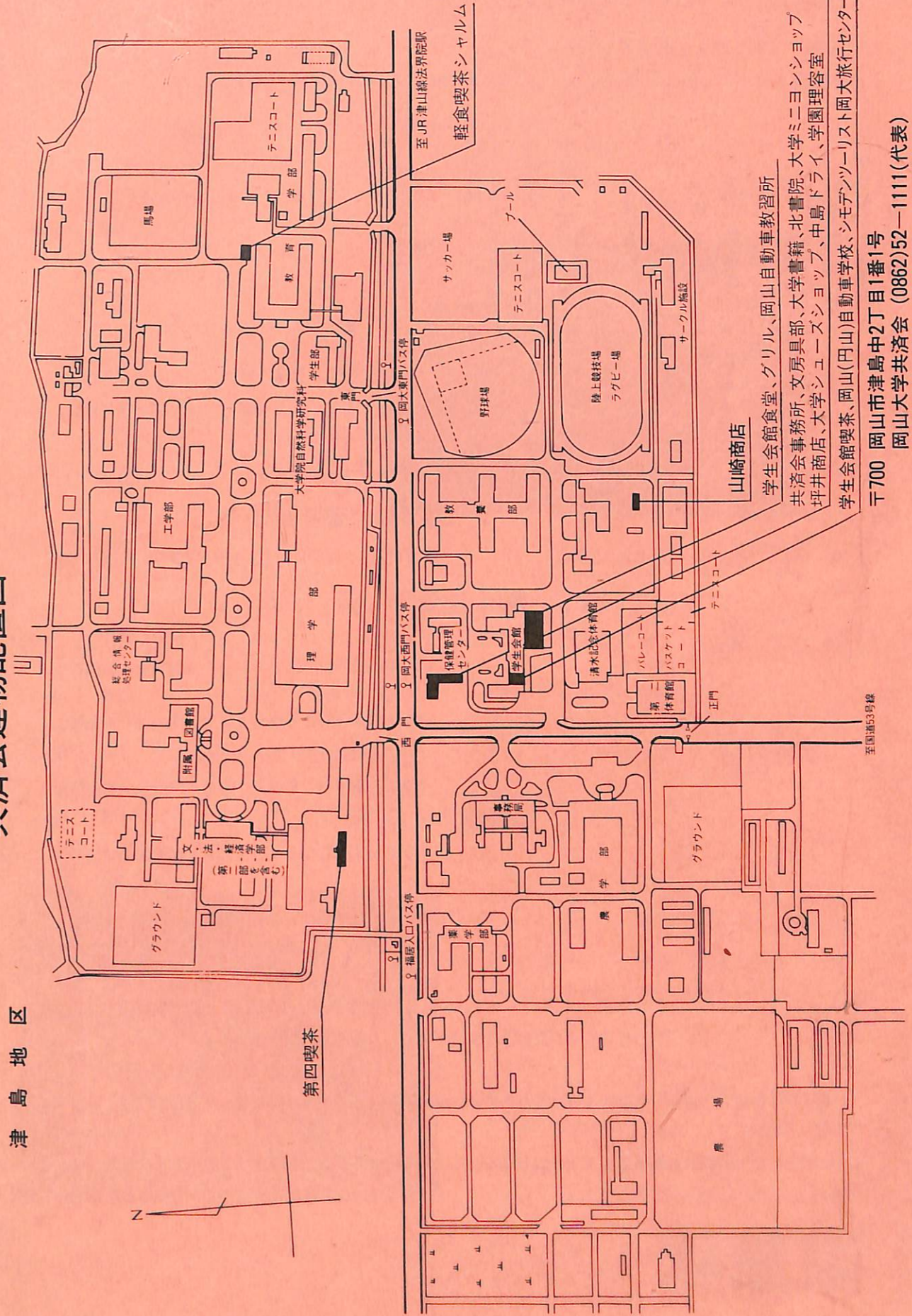
「共済会」の言葉の響きに、津島で学生時代を過ごした皆がある種の郷愁を覚えます。今後も岡山大学の福利厚生事業の改善のため、学生、教職員の双方が努力を重ねていきたいものです。

(広報検討部会長 山田 雅夫)



発行 岡山大学共済会運営委員会  
 編集 広報検討部会  
 印刷 広和印刷株式会社

共済会建物配置図



山崎商店  
 学生会館食堂、グリル、岡山自動車教習所  
 共済会事務局、文房具部、大学書籍、北書院、大学ミニヨンショップ  
 坪井商店、大学シューズショップ、中島ドライ、学園理容室  
 学生会館喫茶、岡山(円山)自動車学校、シモンツリスト岡大旅行センター

〒700 岡山市津島中2丁目1番1号  
 岡山大学共済会 (0862)52-1111(代表)